

341. 函数方程式 = 就テ, ∇

福原満洲雄 (北大)

完備シタ線状D空間 E = 於ケル一次方程式 = 関シテハ Riesz ノ研究 (Acta Math. 1918) ガアルコトヲ南雲氏カラ注意ヲ受ケマシタガ、実ハ Leray-Schauder モソレヲ引用シテ居タノデ、ウツカリ見落シア居タモノデシタ、ソレニ依ツテ III デ述べタ定理モ成立シ、南雲氏ガ示サレタ如ク

$$X - \lambda F(X) = x$$

ノ解ガ λ ノ有理型函数トナルコトモ明カニナリマシタ、コレデ Fredholm ノ積分方程式ノ抽象化ハ大体片ガツイタワケデスガ、更ニ非線形方程式ヘ進ムニハ

$$X - \lambda F(X) = 0$$

ノ解 $X=0$ ノ *indice* ヲ求メテオカナケレバナラナイ、ソレモ Leray-Schauder ガ求メテキルノデスガ、ソレガ ± 1 デアルコトハ次ノマウニ考ヘテモヨイマウデス、 λ ガ複素数デアルトキニ λx ($x \in E$) ガ定義サレテキルナラバ、ソノ指数ハ $+1$ デアル、コレハ固有値ガ孤立シテキルコトカラ得ラレル簡單ノ事実ニ過ギナイ、ソノ際

$$\|\lambda x\| = |\lambda| \cdot \|x\|$$

ナル關係ハ λ ガ実数ノ時ニ成立シテ居レバヨイノデ、一般ニ λ ガ複素数ナラバ

$$\|Ax\| \leq L \|x\|$$

トナルマウナ A = 無関係ナ L が取レレバヨイ。従ツテ Ax ($x \in E$) が A ノ実数值 = 對ツテ ノミ 定義サレテ居ル場合 = ハ 虚單位 i ヲ導入シテ $x + iy$ ナル点ノ 集合ヲ E^* デ表ハシ

$$(\mu + i\nu)(x + iy) = \mu x - \nu y + i(\nu x + \mu y)$$

$$\|x + iy\| = \sqrt{\|x\|^2 + \|y\|^2}$$

ト定義シ,

$$F(x + iy) = F(x) + iF(y)$$

= 依ツテ $F(x)$ ヲ E^* デ 定義サレタ 函数ト 見做セバ

$$X - F(X) = 0$$

ノ 解 $X = 0$, *indice* ± 1 トナル。コレハ $E^* = E$ デ 考ヘテノ 話デアルカラ $E = E^*$ ヲ 考ヘレバ ソノ *indice* ± 1 トナル。

尚 Ⅱ デ *Leray-Schauder* オヲ 引用シタ ノハ 定理 2 ガ ケデアルガ, ソレハ 彼等ガ *théorème fondamental* ト名ヅケテ居ルモノノ 一部分デアル。而モ ソノ *théorème fondamental* \pm *indice* が 持ツ 性質カラ 得ラレル 結果ノ 一部分 = 過ぎナイコトモ 彼等ガ 注意シテ 申ル 通りデアル。ソノ *théorème fondamental* ノ 残ツタ 部分ハ 次ノマウ = 述べラレル。

定理 14. 「定理 2 ト 同ジ 假定, 下ニ 次ノ 性質ヲ 持ツ 連続体 Γ が 存在スル。 Γ ハ

$$(1) \quad x - F(x, k) = 0$$

ノ解カラ成ル。K = 属スル勝手ナ k ノ値 = 對シテ Γ ハ (x, k) ナル点ヲ含ム、即チ $\Gamma \ni E =$ 平行 = 実軸上 = 射影スレバ K ト一致スル」

此ノ証明ガ臆 = 基チナカッタノデアルガ、ソレハ次ノマシ = シテ証明サレル。(Leray-Schauder ハ(1)ガ $k = k_0$ ノトキ有限個ノ解ヲ持ツトシ、此ノ假定ヲ利用シテ居ルノデアルガ、此ノ假定ハ本質的ナ意味ヲ持タナイ)

(1)ノ解ノ集合ヲ C トスル、Cヲ成分 = 込ケ、ソノーツノ成分 C_i ヲ取レバ、任意ノ正ノ数 $\varepsilon =$ 對シテ

$$C_i \subset U_i \subset U_\varepsilon(C_i), \quad U_i' C = 0$$

デアルマシナ前集合 U_i ガ取レル。但シ $U_\varepsilon(A)$ ハ A カラ ε ヨリ小サイ距離 = アル点ノ集合ヲ表ハシ、 U_i' ハ U_i ノ縁ヲ表ハス。Cハ compact デアルカラ C, 成分 U_1, \dots, U_m ヲ適當 = 取レバ Cハ U_1, \dots, U_m デ被ハレル。從ツテ

$$U_1 + \dots + U_m \supset C$$

$$C_j \subset U_j \subset U_\varepsilon(C_j), \quad U_j' C = 0 \quad (j = 1, 2, \dots, m)$$

トナル。此ノ時更 =

$$U_j \cap U_k = 0 \quad (j, k = 1, 2, \dots, m; j \neq k)$$

トナルマシ = 出來ル。k = 一定, $x \in E$ デアルマシナ点 (x, k) ノ集合ヲ $E(k)$ デ表ハスコト = スレバ $\Omega \cap F(k_0) = \omega(k_0) =$ 於ケル(1)ノ解ノ indice total ハ 0 ナリ。ソレハ $U_1 E(k_0), \dots, U_m E(k_0) =$ 於ケル

$indice\ total$ の和 = 等しい。故 = 方程式 (1) の
 $U, E(k_0) =$ 於ける $indice\ total$ が 0 ではないと假
 定してよい。 $U_1 = \Omega_1, C_1 = \Gamma_1$ と置き、正の数 ε_1 を取り、
 Ω, ε から出発して Ω_1, Γ_1 を求めたと同様 =、 Ω_1, ε_1 から
 出発して Ω_2, Γ_2 を求め、又 = 正の数 ε_2 を取り同様の方
 法で Ω_2, ε_2 から Ω_3, Γ_3 を求め、此のやり = して続
 けて行けば 0 = 収斂する正の数の列 $\{\varepsilon_j\}$ が與へられ、
 次、性質を満たす $\{\Omega_j\}, \{\Gamma_j\}$ が求められ、

$$\Omega_j \supseteq \Omega_{j+1}, U_\varepsilon(\Gamma_j) \supset \Omega_j \supset \Gamma_j, \Omega_j \cap C = \emptyset$$

$$(j = 1, 2, \dots);$$

Ω_j は開集合、 Γ_j は C の部分;

$\Omega_j \cap E(k_0) = \omega_j(k_0) =$ 於ける (1) の解、 $indice\ total$ は 0 ではない。

$$\Gamma = \bigcap_{j=1}^{\infty} \overline{\Omega_j}$$

と置けば Γ が定理で述べた性質を満

た連続体となる。